

# NO SHIBAI, NO LIFE?

## ～ 江戸のエンターテイメント魂! ～

第七回  
江戸に幸福力を学ぶ人情噺の会  
(旧久松町倶楽部)

蘊蓄齋ひげ丸

# はじめに

- **第二クール：落語を知ろう**

と題して4回程度の連続で考えています。

- 今回はその3回目。

『江戸の苦楽と娯楽：芝居噺の魅力に触れる』

- **第一回：上方落語&音曲噺を知ろう**

- たちきれ

- **第二回：江戸の包容力に触れよう**

- 心眼



# 落語のジャンル

- 落とし噺  
(滑稽噺)
- 人情噺
- 怪談噺
- 芝居噺
- 古典落語
- 新作落語
- 音曲噺 上方落語
- (素噺) 江戸落語
- 廓噺
- 与太郎噺
- 長屋噺
- 幫間噺
- 盲人噺
- 夫婦噺
- 職人噺
- 親子噺
- 武家噺 などなど

# 芝居といえは、歌舞伎のこと

- お芝居に行くといったら、当時は歌舞伎を見に行くこと
  - 朝から夕方までの一日がかり
  - 幕間が長かった
- お茶屋経由で、桝席や棧敷に案内される
  - 毛氈、座布団、茶、煙草、番付、菓子、弁当、寿司、酒肴 → 幕の内弁当もここから
  - 幕間に女性は、茶屋でおめかしや着替えなども
- 江戸三座で茶屋が150軒
- 明治四十四年に開場した帝国劇場が、千ヶツ制の導入、飲食禁止へ
  - 当時は、千ヶツは直接劇場では購入できないしくみ
- 今は、大相撲でその名残りが残っていますね

# オペラとの違いは？

- 西洋の額縁方の舞台と大きく違うのは、花道の存在。幕を隔てて舞台と客席が隔絶されていないのが特徴。
- 歌舞伎は舞台から、外に（客席に向けて）エネルギーが出てゆく。
- 一方、オペラや西洋演劇は、エネルギーが内に向かう（舞台の中：額縁の中）
- 寺崎裕則氏  
（松竹歌舞伎演出家&日本オペレッタ協会芸術監督）

さて、クイズです。

我々の身近な出来事や、コトバの  
中に、歌舞伎由来のものって、  
何があるか、ご存知ですか？

# そうそう、歌舞伎と言えば、 歌舞伎揚



# 色も気になりますね

- 江戸を代表する色の組み合わせは？
  - 「茶汲み」なんていいます
    - 茶 (ちゃ) → 黒 (く) → 緑 (み)
  - 定式幕 (じょうしきまく)



歌舞伎座



勘三郎襲名披露公演



# 十八番って？

- よく言いますよね！、カラオケなんかで「俺の**十八番**（オハコ）をとられた！」
- って、この**オハコ**、**十八番**はどんな由来があるのでしょうか？
  - 野球のエースも、そういえば、**18**

# 市川家の歌舞伎十八番

- 七代目市川團十郎が、市川家（成田屋）のお家芸を十八演目を制定
  - 天保3年（1832年）のこと
  - 暫、七つ面、象引、蛇柳、鳴神、矢の根、助六、関羽、押戻、鎌髭、外郎売、不動、毛抜、不破、解脱、勧進帳、景清、嫩

# なんで、オハコ？十八？

## • 箱書きから？

十八番を「おはこ」と言うようになったのは、『歌舞伎十八番』の台本を箱に入れて大切に保管していたことからとする説と、箱の中身を真作と認定する鑑定家の署名を「箱書き」と言い、認定された芸の意味から「おはこ」になったとする説がある。

## • 十八は、仏教でいうところの完全の意？

十八番の「十八」という数字は、「十八界」という仏教で存在の領域を一八に分類した言葉があり、「十八」という数字の「必要なもの全て」といった意味からとする説もあるが、正確な由来は不明。

十八番の「番」は、能や狂言などを数える単位である。

十八番の意味は、最も得意とする芸や技から転じ、よくする動作や行動・口癖などにも用いられるようになった。

# 千両役者って？

- **いよ！千両役者！**なんて掛け声も、最近  
は聞かなくなりましたが。。。
- この千両って？どこから来てるかご存知  
でしょうか？
  - 千両って、今で言うと、いくらぐらい？



# 千両役者 = 1億円以上？

**1両 = 10万円以上として。**

一応の試算で、江戸時代中期の1両（元文小判）は

- 1) 米価では1両 = 約4万円
- 2) 賃金で1両 = 30~40万円
- 3) そば代金では1両 = 12~13万円

# 年棒の額（11月から翌10月まで）

- **役者の給金、身上のこと**
  - **千両取り、八百両取り**
    - さばよんで、やや高めに言う慣わし
- **業界初は？**
  - **芳沢あやめか、二代目市川団十郎か**
    - 団十郎は、1721年の記録が
  - **江戸中期以降は、千二百両役者も**
- **寛政の改革では、**
  - **上限を設けて、五百両に幕府が制限**
    - あまり守られなかったらしい

# 他にも歌舞伎由来のコトバ多数

- 柿（こけら）落し
  - こけら = 木屑
- 板に付く
  - 板 = 舞台
- 世話場（世話物）
  - 本来人に見せるものではない場面、フライベートな場面
- 棧敷
  - 物見のための棚（臨時性、まつりの時）
  - もともとは、狭敷（サズキ）説が有力

**そのくらい、生活に密着！**

**コトバが今に残るほど、**



# メインの物語は

- なんとといっても、**仮名手本忠臣蔵**
- 誰もが、**台詞回し**から、**動き（所作）**、**ストーリー**を知っていた
- もともと、**竹本義太夫**、**人形浄瑠璃**から
  - 討ち入りから47年、1748年四十七士を四十七文字になぞらえて竹本座で、**人形浄瑠璃**として上演
  - 翌年には、**大阪**、**京都**、**江戸**で**歌舞伎**に

# 仮名手本忠臣蔵がモ千秋の落語は、 本当に多い (出典：三一書房 落語歌舞伎あわせ鏡より)

【大序】	鶴ヶ岡八幡社前の場	15		
【二段目】	桃井館の場	17		
	『芝居風呂』	17		
【三段目】	足利館の場	18		
	『よいよい蕎麦』	『紙屑屋』	『質屋芝居』	20
【道行旅路の花髻】	戸塚山中の場	21		
【七段目】	『龍宮界龍の都』	『そってん芝居』	『猫芝居』	21
【四段目】	塩治判官館の場	22		
	【四段目】	24		
	【淀五郎】	24		
【五段目】	山崎街道の場	29		
	【中村仲蔵】	32		
	【五段目】	36		
	【能狂言】	36		
【六段目】	与市兵衛内の場	39		
	【六段目】	41		
	【片袖】	42		
	【鹿政談】	43		
【七段目】	祇園一力茶屋の場	45		
	【七段目】	47		
	【権助芝居】	51		
	【落ちやるか】	54		
【八段目】	道行旅路の嫁入	56		
【九段目】	山科閑居の場	57		
	【九段目】	58		
【十段目】	天川屋の場	60		
	【天川屋義平】	61		
【十一段目】	高家討入りの場	62		
	【山岡角兵衛】	63		
【外伝】	65			
	【大高源吾】	65		
	【赤垣源蔵】	66		
	【高田軍兵衛】	66		
	【神崎与五郎】	67		
	【五目講釈】	68		



# 歌舞伎と落語の関係

- 落語の芝居噺は、流行った歌舞伎のパロディが基本
- 重要な一節や、場面などをモチーフに噺が組み立てられる
- 村芝居も盛ん：自分たちで演じていたので、その顛末を面白おかしく描く劇中劇のような噺も多い
  - ○○茶番、権助芝居

**そんな歌舞伎は、庶民にとって  
どんな存在？**

**教えて！石川英輔先生**

# 江戸歌舞伎は市民芸術の華

By 石川英輔氏「江戸空間」より



- 江戸文化（特に化政期）は、貴族の庇護の下の芸術ではなく、  
**市民が勝手に楽しんでいた生活文化**
- 錦絵（浮世絵）も。
  - 世界レベルの作品が、庶民の間で生まれ育った
  - 貴族のための美術品ではなく、庶民が育てたアート
  - 印象派のきっかけに

# 芝居（歌舞伎）が盛んになるのは、 宝暦年間から

- だいたい、1750年ごろ～
- この時期に、名優が輩出
  - 七代目市川團十郎 → かまわめ
  - 三代目尾上菊五郎
  - 五代目岩井半四郎
- 作者に、
  - 鶴屋南北、以降、河竹黙阿弥
- 映画やテレビが出てくるまで、芝居が娯楽の中心

# 江戸のファッションの流行は、 歌舞伎役者から。誰が着たかが重要

- かまわめ模様 七代目團十郎
- 市松模様 初代さの川市松
- 三柵模様 市川團十郎の家紋
- 高麗屋格子 五代目松本幸四郎
- 亀蔵小紋 九代目市村羽左衛門
- 仲蔵格子（縞） 中村仲蔵の故事にちなむ

**かつてのマチコ巻き？  
この間までのアムラー？**

**でも、たんなるフームと言うよりは、  
生き様や反骨の気持ちも含む。**



# 歌舞伎は弾圧される対象

- 能狂言は、貴族（武家）の庇護
- 歌舞伎は、まさしく庶民の勝手文化
- 風紀を乱すものというお上の認識
- 取り締まりの対象
  - 奢侈を禁じた
  - 天保の改革がその最たるもの
    - 猿若町に隔離
    - 給料の上限
    - 外出規制等

# しかし、もはや遮ることが難しいほど 湧き上がる**庶民力**！

- 封建社会を突き動かす、**パワーがあふれた江戸後期**
- 神社仏閣への参詣、お伊勢参り、熊野詣、札所巡礼、湯治、物見遊山、夕涼み、花見、月見、雪見、菊見、祭礼、三大祭、盆踊り、縁日、開帳、見世物、茶の湯、生け花、踊り、音曲など、**行動文化**が花開く by 西山松之助氏

**エンターテイメント魂が、  
誰にでも備わっていた！**

**きっと、誰もが表現者！**

**大衆芸能花盛り  
祭りや縁日に、素人芝居が大人気**

**そんな風景を面白おかしく表現している  
落語の芝居噺の数のなんと多いことか**

# **NO SHIBAI, NO LIFE ?**

**芝居なくして、人生なし。**

**芝居で、暮らしができています。**

**芝居があることで、気持ちや生活が  
豊かになる。**

**きっと、だれもが自分の居場所や  
役割、存在のリアルを感じることが  
できた時代**

**それが幸福力の一つの形だったのでは？**

**役者の生き様を引き受けるという感覚  
誰かを演じるという快感！**

**そして、それを皆が認めていた  
(前回のやさしさと包容力に通じる)**

# 落語 中村仲蔵について

三代目中村仲蔵の手前味噌より

# 中村仲蔵ってどんな人？

- 門閥主義の歌舞伎の世界で
- 稲荷町出身で、名題になれた稀有な存在
- 大部屋俳優が、銀幕スターに

1736年（元文元年）生まれ。  
1745年（延享二年）二代目中村伝九郎弟子入り  
1760年（宝暦十年）中村仲蔵を名乗る  
1764年（明和元年）頃、名題昇進  
1776年（安永五年）中村座の座頭に 41歳  
1790年（寛政二年）死去 55歳

屋号は「栄屋」

俳優名は「秀鶴」

# 中村仲蔵ってどんな人？2

- 關外（稻荷町役者）の生まれから、名題、座頭までになった初の役者。
- 二代目中村伝九郎に弟子入り後、四代目市川團十郎を中心とした勉強会、修行講で芸を磨いていったといわれている。
- 彼は、「演技の上手、舞踏の妙手」とたたえられていた。
- 舞踏は、歌舞伎の始まりから女形の表芸だったが、立役も踊ることを認めさせた。
- （踊りの志賀山流の家元も兼ねていた：今に伝わる仲蔵振り）



# 斧定九郎、台詞は一言「50両」

中村仲蔵の新演出で、  
端役がメインの役に変貌し、  
今に受けつがれている

伝統のイノベーションの例

**ご静聴、ありがとうございました。**

**蕨齋ひげ丸**

